

研究ノート

『資本論』における反映概念ノート（二）

石 井 伸 男

Der Begriff von “widerspiegeln” in K.Marx<Das Kapital>(2)

Nobuo ISHII

1 , 『資本論』第一巻内残存部分の検討

ノート（一）末尾で述べたように『資本論』第一巻（MEW, Bd.23）には、そこで検討した17箇所以外に、「反映」ないしは「反映する」を用いた文章が10箇所ほど見つかった。そこでまず以下では、引き続きそれらの箇所を検討する。検討の方針は前稿を踏襲しているので参照されたい（『高崎経済大学論集』第46巻第4号、105-114頁）。

【18】Anmerkung18

In gewisser Art geht's dem Menschen wie der Ware. Da er weder mit einem Spiegel auf die Welt kommt noch als Fichtescher Philosoph : Ich bin ich, bespiegelt sich der Mensch zuerst in einem andren Menschen. Erst durch die Beziehung auf den Menschen Paul als seinesgleichen bezieht sich der Mensch Peter auf sich selbst als Mensch. Damit gilt ihm aber auch der Paul mit Haut und Haaren, in seiner paulinischen Leiblichkeit, als Erscheinungsform des Genus Mensch.

（訳）ある意味では人間も商品と同じである。彼は鏡をもってこの世に生まれてくるのではなく、「自我は自我である」というフィヒテ流の哲学者として生まれてくるのではないから、人間はまず他人のなかに自分を映してみるのである。人間ペテロは、彼と等しい者としての人間パウロと関係することによって、はじめて人間としての自分自身に関係する。しかしそれとともに、またペテロにとっては、パウロのすべてが、そのパウロ的身体のままで、人間種族の現象形態だと見なされるのである。

（コメント）これは本文s.67にある次の文に付けられた注である。

Vermittelst des Wertverhältnisses wird also die Naturalform der Ware B zur Wertform der Ware A oder der Körper der Ware B zum Wertspiegel der Ware A....それゆえ価値関係の媒介によって、商品Bの現物形態は商品Aの価値形態になる。言い換えれば商品Bの肉体は商品Aの価値鏡になる。...本文・注とも大変興味深い。一商品は他の商品に関わりそれを商品と認めることによって、自分をも商品の一つだと知る。人間もそれと同じだということである。すなわち、他者に反省することを媒介して自己反省するという論理が、鏡の反映関係を用いて語られている。

【19】s.72

Im Wertausdruck der Leinwand besteht die Nützlichkeit der Schneiderei nicht darin, daß sie Kleider, also auch Leute, sondern daß sie einen Körper macht, dem man es ansieht, daß er Wert ist, also Gallerte von Arbeit, die sich durchaus nicht unterscheidet von der im Leinwandwert vergegenständlichten Arbeit. Um solch einen Wertspiegel zu machen, muß die Schneiderei selbst nichts widerspiegeln außer ihrer abstrakten Eigenschaft, menschliche Arbeit zu sein.

(訳) リンネルの価値表現では、裁縫の有用性は、それが衣服をつくり人を立派にすることにあるのではなくて、それが価値だと認められるような物体、すなわちリンネルの価値に対象化された労働とまったく区別されないような労働の凝固物をつくることにある。こうした価値鏡をつくるためには、裁縫そのものは人間的労働であるというその抽象的性質以外、なにも反映してはならないのである。

(コメント) 上記【18】とあわせて、商品が価値鏡であるとは、そこに抽象的人間労働のみが反映されることだと、「価値鏡」という概念の意味が説明されている。

【20】s.78

Die Mängel der entfalteten relativen Wertform spiegeln sich wider in der ihr entsprechenden Äquivalentform. Da die Naturalform jeder einzelnen Warenart hier eine besondere Äquivalentform neben unzähligen andren besondren Äquivalentformen ist, existieren überhaupt nur beschränkte Äquivalentformen, von denen jede die andre ausschließt.

(訳) 展開された相対的価値形態の欠陥は、それに対応する等価形態に反映する。ここでは各個の商品種類の現物形態が、無数の他の特殊な等価形態とならぶ一つの特殊な等価形態なのだから、総じて、ただそれぞれが互いに排除しあう制限された等価形態が存在するにすぎない。

【21】 s.105

Man hat gesehn, daß die Geldform nur der an einer Ware festhaftende Reflex der Beziehungen aller andren Waren. Daß Geld Ware ist, ist also nur eine Entdeckung für den, der von seiner fertigen Gestalt ausgeht, um sie hinterher zu analysieren.

(訳)すでにみたように、貨幣形態は、他のすべての商品相互の関わりが一商品に固着した反映物にすぎない。したがって、貨幣が商品であるということは、その完成した姿態から出発し、後からこれを分析しようとする者にとって、一つの発見であるにすぎないのである。

(コメント)ここはReflex が用いられているが、反映の意味で使われていると解した。

【22】 s.124

Weil die entäußerte Gestalt aller andren Waren oder das Produkt ihrer allgemeinen Veräußerung, ist Geld die absolut veräußerliche Ware. Es liest alle Preise rückwärts und spiegelt sich so in allen Warenleibern als dem hingebenden Material seiner eignen Warenwerdung.

(訳)貨幣は、他のすべての商品が手放された姿、あるいはそれらの一般的譲渡の産物であるから、それは絶対的に譲渡可能な商品である。貨幣はあらゆる価格を逆方向に読むのであり、こうして貨幣自身が商品化するための忠実な材料としてのすべての商品体に、自らを映すのである。

(コメント) sich spiegeln が用いられているが、これも sich widerspiegeln と同じ意味である。

【23】 s.125

Betrachten wir nun die Gesamtmetamorphose einer Ware, z.B. der Leinwand, so sehn wir zunächst, daß sie aus zwei entgegengesetzten und einander ergänzenden Bewegungen besteht, W - G und G - W. Diese zwei entgegengesetzten Wandlungen der Ware vollziehn sich in zwei entgegengesetzten gesellschaftlichen Prozessen des Warenbesitzers und reflektieren sich in zwei entgegengesetzten ökonomischen Charakteren desselben.

(訳)さて今度は我々が一商品、たとえばリンネルの総変態を考察するならば、まず第一にそれらがW-GとG-Wという、対立し互いに補いあう二つの運動からなることが目につく。商品のこれら二つの反対の変態は、商品所持者の対立する二つの社会的過程で実行され、彼の対立する二つの経済的役割に反映される。

(コメント)もちろん「対立する二つの社会的過程」とは、「売り」と「買い」、「対立する

二つの経済的役割」とは「売り手」と「買い手」のことである。

【24】 s.640

Ich nenne die erstere die Wertzusammensetzung, die zweite die technische Zusammensetzung des Kapitals. Zwischen beiden besteht enge Wechselbeziehung. Um diese auszudrücken, nenne ich die Wertzusammensetzung des Kapitals, insofern sie durch seine technische Zusammensetzung bestimmt wird und deren Änderungen widerspiegelt: die organische Zusammensetzung des Kapitals. Wo von der Zusammensetzung des Kapitals kurzweg die Rede ist, ist stets seine organische Zusammensetzung zu verstehn.

(訳) 私は第一の構成を資本の価値構成とよび、第二の構成を資本の技術的構成とよぶ。二つのあいだには密接な相互関係がある。これを表わすために、私は資本の価値構成を、それが資本の技術的構成によって規定され、その諸変化を反映するかぎり、資本の有機的構成とよぶこととする。簡略に資本の構成と述べる場合には、つねにその有機的構成を理解すべきである。

【25】 s.648

Es sind diese absoluten Bewegungen in der Akkumulation des Kapitals, welche sich als relative Bewegungen in der Masse der exploitablen Arbeitskraft widerspiegeln und daher der eignen Bewegung der letzteren geschuldet scheinen.

(訳) このような資本蓄積における絶対的諸運動が、搾取可能な労働力の量における相対的諸運動として反映するのであり、したがって労働力の量そのものの運動に起因するように見えるのである。

【26】 s.651

Diese Veränderung in der technischen Zusammensetzung des Kapitals, das Wachstum in der Masse der Produktionsmittel, verglichen mit der Masse der sie belebenden Arbeitskraft, spiegelt sich wider in seiner Wertzusammensetzung, in der Zunahme des konstanten Bestandteils des Kapitalwerts auf Kosten seines variablen Bestandteils.

(訳) このような資本の技術的構成の変化、すなわち生産手段の量がそれに生命を与える労働力の量に比べて増大するということは、資本の価値構成に、資本価値の可変成分を犠牲にしたその不変成分の増大に、反映する。

(コメント) 文例【24】～【26】は、第七編、資本の蓄積過程、第二三章、資本主義的蓄積の一般法則、からの文章である。

【27】 s.683

Bei Analyse der Pauperstatistik sind zwei Punkte hervorzuheben. Einerseits spiegelt die Bewegung im Ab und Zu der Paupermasse die periodischen Wechselfälle des industriellen Zyklus wider. Andererseits trägt die offizielle Statistik mehr und mehr über den wirklichen Umfang des Pauperismus im Grad, worin mit der Akkumulation des Kapitals der Klassenkampf und daher das Selbstgefühl der Arbeiter sich entwickeln.

(訳) 貧民統計を分析するにあたっては次の二点を重視しなければならない。一方では貧民大衆の増減運動は、産業循環の周期的な局面交替を反映すること。他方では、資本の蓄積とともに階級闘争が進展し、したがってまた労働者たちの自覚が進展するにつれて、受給貧民の実際の範囲についての公式統計はますます欺瞞的になることである。

【28】 s.728

Von der Bewegung der Bevölkerung und Bodenproduktion Irlands gehen wir über zur Bewegung in der Börse seiner Landlords, größeren Pächtern und industriellen Kapitalisten. Sie spiegelt sich im Ab und Zu der Einkommenssteuer.

(訳) アイルランドの人口と土地生産の変動から、我々はつぎにアイルランドの大地主、大借地農業者、産業資本家の財布に生じた変動に移ろう。それは所得税の増減に反映しているのである。

【29】 s.789

Privateigentum, als Gegensatz zum gesellschaftlichen, kollektiven Eigentum, besteht nur da, wo die Arbeitsmittel und die äußeren Bedingungen der Arbeit Privatleuten gehören. Je nachdem aber diese Privatleute die Arbeiter oder die Nichtarbeiter sind, hat auch das Privateigentum einen andern Charakter. Die unendlichen Schattierungen, die es auf den ersten Blick darbietet, spiegeln nur die zwischen diesen beiden Extremen liegenden Zwischenzustände wider.

(訳) 私的所有は、社会的、集団的所有の対立物として、労働手段および労働の外的諸条件が私人たちに属する場合にのみ存立する。しかしこの私人たちが労働者であるか非労働者であるかに応じて、私的所有もまた性格が違うものになる。私的所有が一見あらわす無限の色合いは、これら両極のあいだにある種々の中間状態を反映しているだけである。

(コメント)これは第二四章、第7節「資本主義的蓄積の歴史的傾向」冒頭近くの文章であり、内容上も重要な叙述である。続いて、自営農民、手工業者などが、私的所有と社会的所有のどういう「中間状態」であるかが述べられる。

2, 『資本論』第二巻 (MEW, Bd.24) における反映概念

第一巻での反映概念の使用は、私が調べた限りでは以上ですべてである。そこで続いて第二巻の検討に移らなければならないが、しかし不思議にもというべきか、なにか合理的に説明できる理由があるのか、私が見つけた文例はわずか一つだけであった。それを記載してこの「ノート二」を終わる。『資本論』第三巻、『剰余価値学説史』の分析、またマルクスにおける反映概念の内容上立ち入った考察は、次に予定する「ノート三」に譲る。

【30】Bd.24,s.162

Wir sahen Buch I, Kap. V, daß die Produktionsmittel in jedem Arbeitsprozeß, einerlei unter welchen gesellschaftlichen Bedingungen er vorgeht, sich einteilen in Arbeitsmittel und Arbeitsgegenstand. Aber erst innerhalb der kapitalistischen Produktionsweise werden beide zu Kapital, und zwar zu "produktivem Kapital", wie es im vorigen Abschnitt bestimmt. Damit spiegelt sich der in der Natur des Arbeitsprozesses begründete Unterschied von Arbeitsmittel und Arbeitsgegenstand wider in der neuen Form des Unterschieds von fixem Kapital und zirkulierendem Kapital. Erst hiermit wird ein Ding, das als Arbeitsmittel fungiert, fixes Kapital.

(訳)我々が第一巻第五章〔=労働過程〕で見たように、生産手段は、労働過程がどのような社会的諸条件のもとで行われようと、どの労働過程でも労働手段と労働対象とに分けられる。しかし、資本主義的生産様式のなかではじめてこの二つのものが資本になるのであり、しかも前編で規定されたような「生産資本」になるのである。それと同時に、労働過程の本性にもとづく労働手段と労働対象との区別が、固定資本と流動資本との区別という新しい形態で反映されるのである。こうしてはじめて労働手段として機能する物が固定資本となる。

(未完)

* 本号は、「飯岡秀夫教授退職記念号」であるが、私は社会思想を専攻する飯岡教授とは専門領域も世代も近かったため、学問上の会話をはじめ、親しく交流させていただく機会に恵まれた。飯岡先生には、本学勤務中の友誼に感謝するとともに、今後のますますのご健勝をお祈りする次第である。

(いしい のぶお・本学経済学部教授)